

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 9月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 うすい会広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	広島市東区牛田本町6-1-1 電話 082-207-4162		
自己評価作成日	令和6年8月23日	評価結果市町受理日	令和7年1月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104369-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年9月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家族の方とのコミュニケーションを取り、外泊、外出、友人の面会も行っています。家族の方の相談などもいつでも受け付けます。利用者様一人ひとりの気持ちを考えてその気持ちを大切に介護を行っています。 職員も利用者様とのコミュニケーションをとり楽しい1日が過ごせるように努めています。 散歩や買い物が行きたい方にはそれぞれ対応しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は町内会に加入し、地域清掃への協力や利用者は散歩・スーパーでの買い物・季節の外出行事や地域行事等で外出している。又、家族の面会、地域住民の運営推進会議・避難訓練・光明祭り参加や階下保育園児との交流・子ども神輿来訪等、地域との相互交流・世代間交流をしている。コロナ禍により生活空間が狭まったが、その中で事業所内で出来る活動を工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し自信に繋がる事を大切にしている。職員も行事食で手作りのばら寿司を提供したり、尊厳に配慮できる様、身体拘束・虐待チェックシート等によって日頃の言動を振り返る事で自己覚知を図り、理念の「明るい笑顔を絶やさない」ケア実践に努めている。
--

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「三宝一如」とグループホームの理念に沿って地域密着を目指している。少なくなった地域の行事への参加を通じ、実践に繋げている。	開設時に作った理念をケア実践上の道標として掲示・唱和し周知に努めている。ユニット会議で職員の対応や利用者の行動変容を適宜振り返り、理念を検証して管理者は気づきを促している。職員も理念に沿った目標を設定し、半期毎に管理者との個人面談でその達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	少なくなった町内行事に参加させて頂いたり、散歩や買い物等に参加して頂く事で地域の方々との触れ合いを持っている。また、スーパーへの買い物の支援等で地域との関係性が途切れないようにしている。	事業所は町内会に加入し地域清掃への協力や利用者は散歩・スーパーでの買い物・季節の外出行事や地域行事、家族と受診等で外出している。家族の面会、地域住民の運営推進会議・避難訓練・光明祭り参加や階下保育園児との交流、子ども神輿来訪等、地域との相互交流・世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事へ参加し、地域の方々との交流を通じ、認知症のご利用者様と触れ合って頂き、認知症への認識を深めて頂いている。また、地域の方々へ認知症について話す場を設けることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族、民生委員、地域包括支援センターの職員を招き、意見交換を行いサービス向上に努めている。	会議は隔月開催で民生委員・地域包括支援センター職員・併設施施設長・時に家族・利用者等との対面会議となっている。身体拘束適正化委員会・事故報告や意見交換等を行っており、家族から面会時間変更や同上センター職員から身体拘束防止等への提案があり、改善に取り組んでいる。	会議では身体拘束適正化委員会の報告等の工夫もあるが、家族の参加が減り、家族との事業所運営に関する情報共有が不十分である。今後は参加できない家族等との情報共有・意見交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催と報告を介護保険課へ送付している。また、入所者が他サービスを利用するにあたり、事業所で不明瞭な点等について、問い合わせ等を行っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、情報共有をしている。市町担当者とは日頃から相談・報告、運営推進会議の開催報告書の送付、集団指導等の研修にオンライン参加する等、関係構築に努めている。又、地域包括支援センターを介して成年後見制度での連携を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、年1回は必ず施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員で共有している。年間3カ月に1回は、職員で研修を行って行く事になり、実行している。	法人・事業所合わせて年4回の身体拘束適正化研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。職員は身体拘束・虐待チェックシートのアンケートで自己覚知を図ったり、拘束廃止に向けた工夫もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員一人ひとりの発言にも注意を払い、防止に努めている。新入社員には、入職時に管理者が虐待について、オリエンテーションを行っている。また、2ヶ月、3ヶ月に1回は、虐待について職員と繋がりを持って行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に利用されている方がいる為、担当者ややりとりをしながら、職員一人ひとりと必要性を学ぶ機会が持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明させて頂き、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望を受け付けているが書面での受け取りは難しい為、来所された際に気付きや要望を伺い、介護サービス計画書や運営面に反映させている。来られた時は、少しの時間でも声掛けと話を行っている。	家族とは面会時・介護計画見直し時・電話連絡時・ライン（SNS）・運営推進会議等で管理者を中心に意見を把握し、職員は申し送りノート等で情報共有をしている。食事が進まない利用者に預り金にて好きなプリンを提供したり、面会時間の変更や正月の外泊要望に応じた経緯がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当者会議や職員一人ひとりに意見を聞く機会を設けている。発言が少ない職員の意見を聞くための事前アンケートと個人面談を設け、職員から意見を引き出せるようにしている。	事業所は申し送り・ミーティング・ユニット会議・各種委員会・半期毎又は随時の管理者との個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制をとっている。職員の提案により、食事形態の変更にミルミキサー、利用者の歌や運動用にラジカセ購入の例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させ、時間労働ができる限りないように業務の分野や声掛けを行い、超過勤務時には時間外手当の支給と時間調整を図り、負担の軽減を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別に目標を設定し、今現在の個々のレベルを自覚してもらいながら、今後の取組みを一緒に考え、職員が成長できるようにサポートし、外部からの知識等も取り入れられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修への参加を促している。また、法人内での委員会に各職員を配置し、事業所だけの人間関係だけでなく、施設内研修でもグループワークを中心として実施している為、他事業所との意見交換やディスカッションを実施しており、少しでも個々にレベルアップができるように取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面談し、現状における心境への配慮、要望等の確認、アセスメント、担当者会議を通じ、安心してサービスの利用をして頂けるよう、また、良好な関係が築けるように取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の面談や契約時にご家族の置かれている立場や心境に耳を傾け、サービス利用開始されてからも面会等にお越しになられた際に、お話を聞かせて頂き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかりと話し合いのもと、求められている事と必要なサービスの調整、通い慣れた病院への通院等、希望に随時対応していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人家族と担当者会議等にて、しっかりと話し合いをしながら、ご本人様のできる事を見極め、自立支援を行っている。利用者様が得意とされる事を職員にも教えて頂く等、コミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等の際に随時声掛けを行い、ご本人様がより良い生活を送って頂きたい旨を伝え、意見をサービスに反映させている。また、通院等ご家族に協力をいただける事についても話をしながら、難しい時にはホームで対応する等、双方が協力をしながら、本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域行事に参加して頂きながら、馴染みの関係が保てるように努めている。病院、食事処への外出の支援にて、知人や友人等、大切な「人」、「場所」との関係が薄くならないように努めている。また、友人等、面会に来ていただけるよう対応に努めている。	訪問しやすい事業所を重視し、現在は家族と特に時間制限を設けず、居室での直接面会が可能である。地域行事への参加、事業所電話でのやり取り、自筆・代筆による手紙のやり取りや家族の協力で受診等の外出・外泊等を通して馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、ご利用者様同士の良好な関係が続くよう、また、新規入居者の方には、職員が会話等の懸け橋となり、関係の構築に努め、集団レク等により、楽しいひと時の提供の中で更に関係性が良くなるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、相談が入れば、対応している。例えば、退所された後に電話連絡させてもらい、状態の確認、要望や相談があった場合には、随時対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当学会議や事業所の会議にて、本人、ご家族の意向を踏まえながら、生活がより良いものとなるように努めている。困難な場合に於いても職員間で話し合いができる限り、最善のサービスが提供できるように努めている。	利用者毎に担当を決め、利用者とはゆっくり話す中で思いを汲み取り、モニタリング等に反映する様努めている。利用者の意向で天風録の書き写し用の筆記用具を買いに行ったり、意向把握困難な利用者に息子さんの話をして場を和ます等、受け入れ可能な介入か、その言動で検証している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	髪のカットや染等、本人希望も取り入れるように努めている。一人の生活の中で、どの部分が出来なくなっているのかサービス利用前に事前調査し、ご家族やご本人様からアセスメントによる情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様との日々のコミュニケーションや観察により本人の出来る事や出来ない事を見極め、職員間で情報の共有に努めている。職員と一緒に洗濯物を干したり、畳んだりしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員間で話し合った事を再度ご家族に報告、検討してもらい、必要に応じて医療機関等の関係者と連携しながら、現状に即した介護計画書の制作に努めている。	介護計画の原案を適宜カンファレンスで検討して本案とし、全職員が実施状況を毎日モニタリング、計画作成担当者が長期目標である半年を基本に計画を見直している。利用開始時の状態維持を立案の大事な視点とし、下肢筋力の維持のため日に1～2回のベランダ歩行練習を日課としている例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録だけでなく、担当者会議、事業所会議、ヒヤリハット報告書、事故報告書等を元にサービスの内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	気持ちが落ち着かない時には、ご家族と連携し、電話対応を行ったり、散歩したり、気分を変えられる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	保育園との交流や地域行事への参加、日常生活での散歩や買い物等、外出の支度を心掛け、外での生活の充実を図っている。個別レクや集団レク等の提供も行い、日常生活が楽しくなるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	通い慣れた病院への受診を基本としている。家族の方が受診してくださる病院との繋がりも大切にしている。	利用前の主治医継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医とし、内科協力医から週1回、協力歯科医から隔週又は月1回の訪問診療、皮膚科から適宜の往診、他科受診は事業所又は家族が行っている。また非常勤専従の看護師の配置もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携している医院へ日々症状報告書を送り、情報の共有に努めている。何かあった時には電話連絡し、相談・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中定期的に面会に伺い、主治医や医療連携室、薬剤師や看護師への状況の確認を行いながら、退院に向けて備えを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の際に重要事項の説明として伝え、同意を得ている。又、面会に来られた際には、現状を伝え、ご家族へ事業所として提供できる限界について等説明しながら、ご理解頂けるように取り組んでいる。又、入院時に継続した医療が必要となる場合には、主治医や入院先の医師に相談し、連携を図りながら、チームでの支援に取り組んでいる。	利用開始時、利用契約書の重度化対応指針で説明・書面にて事前確認をしている。重度化した際には、関係者で話し合いを行い、介護事業所として受け入れが可能な範囲で適切な支援を行う考えである。基本的には入院等により十分な医療支援体制に取り組むことを、その方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	特に夜間等の急変に備え、新人職員への緊急時の対応について、管理者が説明を行い、訓練を実施している。急変時のマニュアルに基づき動いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施し、災害発生時に備えて訓練を行っている。夜間帯を想定し、各階ベランダへの避難誘導が身に付くよう訓練している。年3回避難訓練をし、年1回は災害の訓練を行っている。	事業所単独又は施設合同で定期的に防火及び防災訓練を消防署の立ち会いを含め、夜間想定、利用者も参加して行っている。合同避難訓練には民生委員も参加し、法人施設は地域の指定緊急退避施設である。BCP（業務継続計画）は法人で統轄しており、3日程度の備蓄を整備している。	

自己評価	外部評価	項 目（Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	些細なことに注意が払えるよう日頃から職員全員で注意しあいながら、プライバシーや尊厳を損ねない対応に気を付けている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図り、適宜身体拘束・虐待チェックシート等で自己覚知を図っている。トイレの見守りも利用者の羞恥心や安全管理を勘案してcm単位で扉を開けておく等、尊厳に配慮し、又申し送りの際も利用者名は匿名化する等、個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行動する前には、必ず、ご本人の意向確認を行うよう取り組んでいる。答える事が難しい方でも質問の仕方に選択肢を設ける投げかけを行い、自己決定に繋がるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先とならないように常日頃から注意をしながらご本人にペースを合わせて支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時・入浴時には必ずご自身に服を選んで頂いている。又、ご自身で身だしなみを整えることが出来ない方は、お部屋から出て来られる際に、服や頭髮乱れを職員が整えるように取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューを食事前に伝え食事を楽しみにして頂く様に努めている。音楽をかけながらリラックスして頂けるよう環境を整えている。嫌いなものがある日には個別メニューを作るようにしており、リクエストをお聞きしメニューに取り入れる事もある。	食事は施設併設の厨房で調理済みの副食・汁物に事業所で主食を添えて提供している。利用者は食材を切ったり、コロッケの成形、むすび作り等、役割に応じた手伝いを行い、光明祭りでかき氷を堪能したり、タコ焼き等のおやつ作りや家族との外食等、食が楽しみとなる工夫もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	水分量を確認しながら、少ない方への目 標を掲げる等し、こまめに摂って頂ける よう、好みの飲み物を取り入れながら提 供している。食事に関しても、個別に形 態を調整し、好みに合わせて提供する時 もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアをご利用者様に実施し ている。訪問歯科の医師と連携し、個別 的に指導を仰ぐこともあり、口腔内の衛 生が保てるように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	基本的にご利用者様のトイレ誘導を実施 しトイレにて排泄して頂けるよう誘導し ている。個別に排尿パターンを把握し、 訴えがあった場合には随時誘導を行っ ている。	排泄記録表で排泄パターンを把握し、ト イレ誘導を基本としている。入院中の紙 おむつから紙パンツ移行や跳ね上げ式の 前方手すりで座位姿勢を支え、夜間排泄 時の転倒防止の為、居室に夜間のみポー タブルトイレや起き上がりセンサーマッ ト設置等、状態に合わせた支援を行っ ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便がなかなかない場合には、お風呂や トイレにて腹部マッサージをさせて頂く 等し、自力排泄が促せるよう取り組んで いる。主治医とも相談を行い薬を出して 頂き便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴の希望を確認し、その希望に沿え るように声掛け促しをさせて頂いている。 順番に関しても、一番風呂を好まれる 方、最後を好まれる方等それぞれの希望 に沿って一人ひとりの支援を行っている。 入浴剤を好まれる方等への対応も 行っている。	週2回の午前・午後浴が基本だが、利用 者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応 している。入浴はスライド式の据え置き 式浴槽を利用した個人浴だが、利用者の 重度化に伴い、シャワー浴や足浴での対 応や浴槽に肩まで浸かれるよう負担を考 慮して入浴介助のリフト浴で対応するこ ともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日々の活動後の休息への配慮を 個々に行っている。日中傾眠が 強い方は、少しの時間ベッドで 休んで頂き夜間へ影響がない ように取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬マニュアルに沿って提供を 行っている。日々の状態に配慮 し、内服薬の見直し等、体調に 変化があった場合には医師に 相談し、調整をして頂いたりす ることもある。変更があった場 合には必ず、職員間で申し送り を行い、情報の共有化に努めて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	会話が好きな方にはしっかりお 話をしながら、他者と繋がり が出来るよう取り組みを行っ ている。カラオケが好きな方 にはカラオケを提供し、手作 業が得意な方にはそちらを提 供する等1日の中で、生活が 楽しくなるよう支援を行っ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支援 している。	月の目標に掲げ、計画を立て ながら外出支援を行っている。 例えばお墓参りや買い物、和 食料理屋への外食等、個々の 希望を確認しつつ、家族と連 携を取りながら外出が出来 るように取り組んでいる。コ ロナで外出が出来なかった が今は家族の希望があれば 外出・外泊もして頂ける。	利用者の希望により少人数 で公園散歩、近隣スーパー での買い物や家族協力も得 ながら受診・一時帰宅・墓 参り等への外出や菊花展等 、季節の外出行事や公民館 祭り等の地域行事、又市内 全景が見渡せる屋上での外 気浴等、普段は行けないよ うな所で「非日常」を楽し むこともある。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解しており 、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり 使えるように支援している。	金銭に関しては基本家族が 管理されている。中には社 会福祉協議会の福祉サー ビス利用援助事業「かけは し」を利用され、自身で管 理をされている方もおり、 外出の希望があった際に 使用されている。		

自己評価	外部評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時にはホームの電話にてご家族と連絡を取り合う方もいらっしゃる。手紙についても書かれた際には、職員と一緒にポストへ投函しに行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や、ご利用者様と一緒に季節の飾りを作り、一緒に飾る等行っている。光が強い時には居室やホールのカーテンを閉める、心地よい風が入る時には窓を開放する等、環境面への配慮も行っている。	フロアには季節行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいが感じられる様配慮している。3階にある事業所は大きな掃き出し窓からの採光を得て、明るい空間となっている。洗濯物も干してあるベランダは生活感もあり、プランターで栽培する花等に水やりをする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時以外は自由に席に座って頂き、ご利用者様に自由に使ってもらっている。居場所作りとしては、ソファが好きな方や一人掛けのテーブルが好きな方等出来る限り個々に合わせ対応させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に入所の際には、ご家族様にご本人が使い慣れた物を持ってきて頂けるようにしている。プレゼントや本人が作られた作品等を飾り、自由に使ってもらっている。	居室にはベッド・洗面台等を設置し、ラジカセ等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。扉までの導線確保のため、ベッド・家具等の配置替え等、環境整備を行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身の所有物に制限はかけず、持ち込んで頂いている。日常生活においても極力手は出さず、見守る事から状況を見極めている。花の水やりなどを自分で行ってもらっている。部屋の片付けも本人様にお任せしている。（出来る方は）		

V アウトカム項目(Aユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「三宝1如」とグループホームの理念に沿って地域密着を目指している。少なくなった地域の行事への参加を通じ、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	少なくなった町内行事に参加させて頂いたり、散歩や買い物等に参加して頂く事で地域の方々との触れ合いを持っている。また、スーパーへの買い物の支援等で地域との関係性が途切れないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事へ参加し、地域の方々との交流を通じ、認知症のご利用者様と触れ合ってもらい、認知症への認識を深めて頂いている。また、地域の方々へ認知症について話す場を設けることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族、民生委員、地域包括支援センターの職員を招き、意見交換を行いサービス向上の向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催と報告を介護保険課へ送付している。また、入所者が他サービスを利用するにあたり、事業所で不明瞭な点等について、問い合わせる等を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、年１回は必ず施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員で共有している。年間３カ月に１回は、職員で研修を行って行く事になり、実行しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員一人一人の発言にも注意を払い、防止に努めている。新入社員には、入職時に管理者が虐待について、オリエンテーションを行っている。また、２ヶ月、３ヶ月に１回は、虐待について職員と繋がりを持って行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に利用されている方がいる為、担当者ややりとりをしながら、職員一人一人と必要性を学ぶ機会が持てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明させて頂き、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望を受け付けているが書面での受け取りは難しい為、来所された際に気付きや要望を伺い、介護サービス計画書や運営面に反映させている。来られた時は、少しの時間でも声掛けと話を行う。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当者会議や職員一人一人に意見を聞く機会を設けている。発言が少ない職員の意見を聞くための事前アンケートと個人面談を設け、職員から意見を引き出せるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させ、時間労働ができる限りないように業務の分野や声掛けを行い、超過勤務時には時間外手当の支給と時間調整を図り、負担の軽減を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別に目標を設定し、今現在の個々のレベルを自覚してもらいながら、今後の取り組みを一緒に考え、職員が成長できるようにサポートし、外部からの知識等も取り入れられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修への参加を促している。また、法人内での委員会に各職員を配置し、事業所だけの人間関係だけでなく、施設内研修でもグループワークを中心として実施している為、他事業所との意見交換やディスカッションを実施しており、少しでも個々のレベルアップできるように取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面談し、現状における心境への配慮、要望等の確認、アセスメント、担当者会議を通じ、安心してサービスの利用をして頂けるよう、また、良好な関係が築けるように取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の面談や契約時にご家族の置かれている立場や心境に耳を傾け、サービス利用開始されてからも面会等にお越しになられた際に、お話を聞かせて頂き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかりと話し合いのもと、求められている事と必要なサービスの調整、通い慣れた病院への通院等、希望に随時対応していけるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人家族と担当者会議等にて、しっかりと話し合いをしながら、ご本人様のできる事を見極め、自立支援を行っている。利用者様が得意とされる事を職員にも教えて頂く等、コミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等の際に随時声掛けを行い、ご本人様がより良い生活を送って頂きたい旨を伝え、意見をサービスに反映させている。また、通院等ご家族に協力を戴ける事についても話をしながら、難しい時にはホームで対応する等、双方が協力をしながら、本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域行事に参加して頂きながら、馴染みの関係が保てるように努めている。病院、食事処への外出の支援にて、知人や友人等、大切な「人」、「場所」との関係が薄くならないように努めている。また、友人等、面会に来ていただけるよう対応に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、ご利用者様同士の良好な関係が続くよう、また、新規入居者の方には、職員が会話等の懸け橋となり、関係の構築に努め、集団レク等により、楽しいひと時の提供の中で更に関係性が良くなるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、相談が入れば、対応している。例えば、退所された後に電話連絡させてもらい、状態の確認、要望や相談があった場合には、随時対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議や事業所の会議にて、本人、ご家族の意向を踏まえながら、生活がより良いものとなるように努めている。困難な場合に於いても職員間で話し合いできる限り、最善のサービスが提供できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	髪のカットや染等、本人希望も取り入れるように努めている。一人の生活の中で、どの部分が出来なくなっているのかサービス利用前に事前調査し、ご家族やご本人様からアセスメントによる情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様との日々のコミュニケーションや観察により本人の出来る事や出来ない事を見極め、職員間で情報の共有に努めている。職員と一緒に洗濯物を干したり、畳んだりしてもらっています。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員間で話し合った事を再度ご家族に報告、検討してもらい、必要に応じて医療機関等の関係者と連携しながら、現状に即した介護計画書の制作に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録だけでなく、担当者会議、事業所会議、ヒヤリハット報告書、事故報告書等を元にサービスの内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	気持ちが落ち着かない時には、ご家族と連携し、電話対応を行ったり、散歩したり、気分を変えられる事に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	保育園との交流や地域行事への参加、日常生活での散歩や買い物等、外出の支度を心掛け、外での生活の充実を図っている。個別レクや集団レク等の提供も行い、日常生活が楽しくなるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	通い慣れた病院への受診を基本としている。家族の方が受診してくださる病院との繋がりも大切にしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携している医院へ日々症状報告書を送り、情報の共有に努めている。何かあった時には電話連絡し、相談・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中定期的に面会に伺い、主治医や医療連携室、薬剤師や看護師への状況の確認を行いながら、退院に向けて備えを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の際に重要事項の説明として、伝え同意を得ている。又、面会に来られた際には、現状を伝え、ご家族へ、事業所として提供できる限界について等説明しながら、ご理解頂けるように取り組んでいる。又、入院時に継続した医療が必要となる場合には、主治医や入院先の医師に相談し、連携を図りながら、チームでの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	特に夜間等の急変に備え、新人職員への緊急時の対応について、管理者が説明を行い、訓練を実施している。急変時のマニュアルに基づき動いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施し、災害発生時に備えて訓練を行っている。夜間帯を想定し、野外への避難誘導が身に付くよう訓練している。年3回避難訓練。年1回は災害の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目（Bユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	些細なことに注意が払えるよう日頃から職員全員で注意しあいながら、プライバシーや尊厳を損ねない対応に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行動する前には、必ず、ご本人の意向確認を行うよう取り組んでいる。答える事が難しい方でも質問の仕方に選択肢を設ける投げかけを行い、自己決定に繋がるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先とならないように常日頃から注意をしながらご本人にペースを合わせて支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時・入浴時には必ずご自身に服を選んで頂いている。又、ご自身で身だしなみを整えることが出来ない方は、お部屋から出て来られる際に、服や頭髮乱れを職員が整えるように取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事メニューを食事前に伝え食事を楽しみにして頂く様に努めている。音楽をかけながらリラックスして頂けるよう環境を整えている。嫌いなものがある日には個別メニューを作るようにしており、リクエストをお聞きしメニューに取り入れる事もある。		

自己 評価	外部 評価	項 目（Ｂユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	水分量を確認しながら、少ない方への目 標を掲げる等し、こまめに摂って頂ける よう、好みの飲み物を取り入れながら提 供している。食事に関しても、個別に形 態を調整し、好みに合わせて提供する時 もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアをご利用者様に実施し ている。訪問歯科の医師と連携し、個別 的に指導を仰ぐこともあり、口腔内の衛 生が保てるように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	基本的にご利用者様のトイレ誘導を実施 しトイレにて排泄して頂けるよう誘導し ている。個別に排尿パターンを把握し、 訴えがあった場合には随時誘導を行って いる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便がなかなかない場合には、お風呂屋 トイレにて腹部マッサージをさせて頂く 等し、自力排泄が促せるよう取り組んで いる。主治医とも相談を行い薬を出して 頂き便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴の希望を確認し、その希望に沿え るように声掛け促しをさせて頂いている。 順番に関しても、一番風呂を好まれる 方、最後を好まれる方等それぞれの希望 に沿って一人一人の支援を行っている。 入浴剤を好まれる方等への対応も行っ ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Ｂユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日々の活動後の休息への配慮を 個々に行っている。日中傾眠が 強い方は、少しの時間ベッドで 休んで頂き夜間へ影響がない ように取って頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	服薬マニュアルに沿って提供を 行っている。日々の状態に配慮 し、内服薬の見直し等、体調に 変化があった場合には医師に 相談し、調整をして頂いたりす ることもある。変更があった場 合には必ず、職員間で申し送り を行い、情報の共有化に努めて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	会話が好きな方にはしっかりお 話をしながら、他者と繋がり が出来るよう取り組みを行っ ている。カラオケが好きな方 にはカラオケを提供し、手作 業が得意な方にはそちらを提 供する等1日の中で、生活が 楽しくなるよう支援を行っ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	月の目標に掲げ、計画を立て ながら外出支援を行っている。 例えばお墓参りや買い物。和 食料理屋への外食等、個々の 希望を確認しつつ、家族と連 携を取りながら外出が出来 るように取り組んでいる。コ ロナで外出が出来なかった が今は家族の希望があれば 外出・外泊もして頂ける。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使える ように支援している。	金銭に関しては基本家族が管 理されている。中には社協の 福祉サービス利用援助事業 「かけはし」を利用され、自 身で管理をされている方も おり、外出の希望があった 際に使用されている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時にはホームの電話にてご家族と連絡を取り合う方もいらっしゃる。手紙についても書かれた際には、職員と一緒にポストへ投函しに行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や、ご利用者様と一緒に季節の飾りを作り、一緒に飾る等行っている。光が強い時には居室やホールのカーテンを閉める、心地よい風が入る時には窓を開放する等、環境面への配慮も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時以外は自由に席に座って頂き、ご利用者様に自由に使ってもらっている。居場所作りとしては、ソファが好きな方や一人掛けのテーブルが好きな方等出来る限り個々に合わせ対応させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に入所の際には、ご家族様にご本人が使い慣れた物を持ってきて頂けるようにしている。プレゼントや本人が作られた作品等を飾り、自由に使ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身の所有物に制限はかけず、持ち込んで頂いている。日常生活においても極力手は出さず、見守る事から状況を見極めて、花の水やりなどを自分で行ってもらっている。部屋の片付けも本人様にお任せしている。（出来る方は）		

V アウトカム項目(Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 令和6年10月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	運営推進会議について。	家族の方の参加。 他の民生委員さんにも参加して頂く。	年に1回は他の民生委員さんに参加して頂く。(消防訓練以外で)	来年度1回目の運営推進会議まで
2	15	利用者様と一緒にカフェに行ってみる。	外のカフェに行ってみる。	近隣で車椅子の方も楽しめるようにお店の方との交渉を行っていく。	来年の春以降暖かくなってから
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。